

卒業論文 目次案

B7R11092 鈴木 綾乃

主張したいこと

「保育士満足度の向上のために業務振り分けを見直す必要があるのではないか」

- ①現役保育士の満足度は正規より非正規の方が高い
 - …休みや勤務時間の自由度の違い
- ②業務の振り分け・役割分担への不満
 - …正規・非正規それぞれの考え
- ③業務振り分けに改善の余地

タイトル (仮)

雇用形態に捉われない
保育士満足度向上のための
業務振り分け

雇用形態に捉われない 保育士満足度向上のための業務振り分け

- 導入

妹が保育士を目指す

→重労働のイメージ

実際はどうなのか、改善はできないのか

雇用形態に捉われない 保育士満足度向上のための業務振り分け

- 取り組み方

情報：[保育士の働くに関する意識調査（株式会社eightより）](#)

[保育所の雇用管理のための事例集（楽天リサーチ株式会社より）](#)

[正規職員と非正規職員（株式会社ウェルクスより）](#)

分析方法：階層分析法（AHP）

- 妥当性

保育士の声を基にした株式会社からの情報

雇用形態に捉われない 保育士満足度向上のための業務振り分け

- 取り組み結果
保育士満足に関わる項目や業務量・内容の定量化分析
→適切な配分
- 得られるもの
業務振り分け改善により保育士満足度の向上が叶う

雇用形態に捉われない 保育士満足度向上のための業務振り分け

- 主張

適切な業務振り分けで保育士の不満を解消させ、満足度を高めることは保育士不足問題の改善につながる。

- まとめ

業務振り分けを見直し、多くの保育士が満足して働ける環境づくりが必要である。